

【NRC自主調査レポート】

# 「NHKプラス・民放同時放送の利用意向」 についての調査

2020年3月調査結果

2020年4月



日本リサーチセンター

Member of WIN and Gallup International Association

<https://www.nrc.co.jp/>

## 調査仕様・結果概要

### 調査課題

- (1)テレビ番組・動画サイト・動画配信サービスの視聴状況の把握
- (2)NHKプラス・民放同時放送の利用意向の把握

### 主な設問

- あなたはテレビ番組(地上波・BS放送)や動画サイト・動画配信サービス(YouTube、ニコニコ動画、AbemaTV、Netflixなど)をそれぞれどれくらいの頻度で視聴しますか。(それぞれ1つだけ)
- NHKは、2020年4月1日(一部3月1日)から『NHKプラス』という配信サービスを開始しますが、ご存知でしたか。(1つだけ)
- あなたは、『NHKプラス』を利用してみたいですか。(1つだけ)
- 今秋以降、民放キー局5局(日本テレビ・テレビ朝日・TBS・テレビ東京・フジテレビ)は地上放送の一部テレビ番組をインターネット上で同時配信を開始予定ですが、ご存知でしたか。(1つだけ)
- あなたは、『民放キー局5局のインターネットでの同時配信の番組』を視聴してみたいですか。(1つだけ)

### 調査方法

インターネット調査

### 調査期間

2020年3月13日(金)～26日(木)

### サンプル数

1,200サンプル

※2015年国勢調査の結果を基に人口とエリアで割付

※各エリアの内訳は以下の通り

北海道・東北:北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

関東:茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野

中部・北陸:新潟、富山、石川、福井、岐阜、静岡、愛知、三重

近畿:滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

中国・四国・九州:鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### 調査結果概要

- 若い層ほど「動画サイト・動画配信サービス」の視聴頻度が高く、年代が高いほど「テレビ番組」の視聴頻度が高い。「動画サイト・動画配信サービス」の視聴頻度が高いほど「テレビ番組」の視聴頻度は低い。
- 認知率は全体で「NHKプラス」が35.5%、「民放同時放送」が30.0%。「NHKプラス」は年代が高いほど認知率が高い。
- 利用意向は全体で「NHKプラス」が22.7%、「民放同時放送」が34.5%。認知同様、「NHKプラス」は年代が高いほど利用意向が高い。50代以下では「NHKプラス」は「利用したくない」が「利用したい・利用している」より高く、その差は若年層ほど大きい傾向。
- 「NHKプラス」、「民放同時放送」のそれぞれの利用意向を「動画サイト・動画配信サービス」の視聴頻度別にみると、「**動画サイト・動画配信サービス週1日以上視聴者**」は「**NHKプラス**」と「**民放同時放送**」ともに、**全体に比べて視聴意向が高い傾向**である。
- 「NHKプラス」、「民放同時放送」の利用意向をそれぞれの認知・非認知者で比較すると、**認知者は、非認知者より利用意向が高い。**

「NHKプラス」と「民放同時放送」ともに

・**動画サイト・動画配信サービス**

**週1日以上視聴者**

・**認知者**

に比較的高い利用意向あり。



#### 《引用・転載時のお願い》

本レポートの外部への引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 (information@nrc.co.jp)

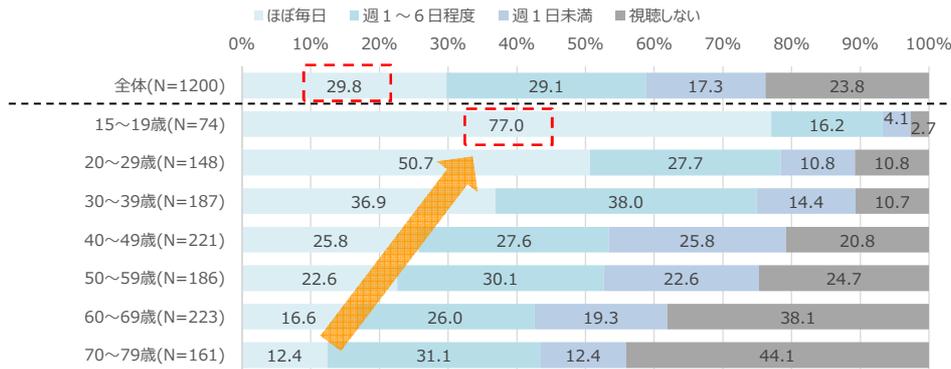
担当：営業企画本部営業企画部第3チーム 洲上 悠人

掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。

## 【動画サイト・動画配信サービス、テレビ番組の視聴状況】

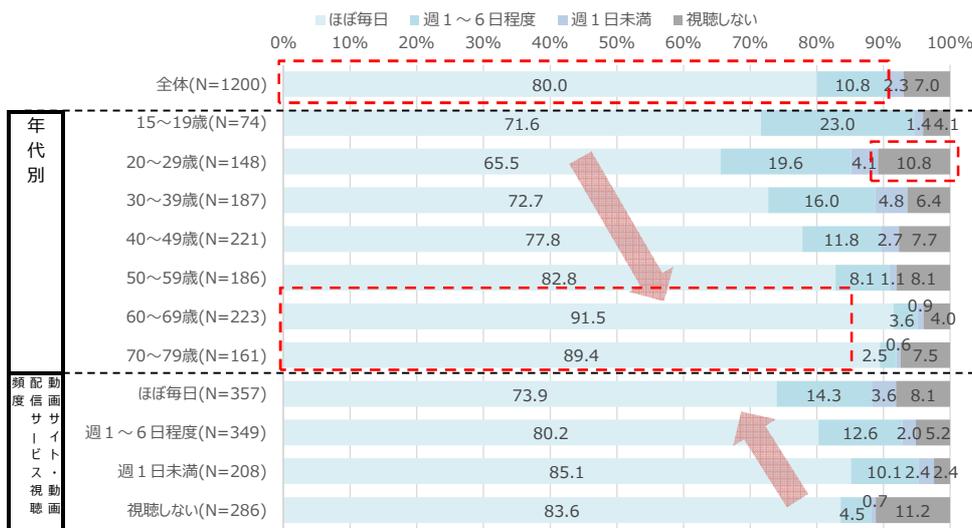
- ・「動画サイト・動画配信サービス」を「ほぼ毎日」視聴しているのは全体で29.8%で、週平均視聴日数は3.0日。
- ・「動画サイト・動画配信サービス」の視聴頻度は若い層ほど高い。10代後半では約8割が「ほぼ毎日」視聴しており、週平均視聴日数は6.0日となっている。
- ・「テレビ番組」を「ほぼ毎日」視聴しているのは全体で80.0%。「週1～6日程度」と合わせると90.8%となり、ほとんどの人が週に1日以上は「テレビ番組」を視聴している。
- ・「テレビ番組」の週平均視聴日数は全体で6.0日。
- ・「テレビ番組」は「動画サイト・動画配信サービス」とは逆に、年代が高いほど「ほぼ毎日」の視聴の割合が高く、週平均視聴日数もやや増加傾向。60代以上では約9割が「ほぼ毎日」視聴している。一方、20代では1割が「視聴しない」と回答。
- ・「テレビ番組」を「動画サイト・動画配信サービス」の視聴頻度別で見ると、視聴頻度が高いほど「テレビ番組」の視聴頻度は低下している。

問、あなたはテレビ番組(地上波・BS放送)や動画サイト・動画配信サービス(YouTube、ニコニコ動画、AbemaTV、Netflixなど)をそれぞれどれくらいの頻度で視聴しますか。(ひとつだけ)[N=1,200]  
 【動画サイト・動画配信サービス(YouTube、ニコニコ動画、AbemaTV、Netflixなど)の視聴頻度】



		週平均 視聴日数 (日/週)
全体		3.0
年代	15～19歳	6.0
	20～29歳	4.5
	30～39歳	3.8
	40～49歳	2.7
	50～59歳	2.5
	60～69歳	1.9
	70～79歳	1.8

【テレビ番組(地上波・BS放送)の視聴頻度】



		週平均 視聴日数 (日/週)
全体		6.0
年代	15～19歳	5.9
	20～29歳	5.4
	30～39歳	5.7
	40～49歳	5.8
	50～59歳	6.1
	60～69歳	6.5
	70～79歳	6.3
動 画	ほぼ毎日	5.7
	週1～6日程度	6.1
	週1日未満	6.3
	視聴しない	6.0

※平均視聴日数は「ほぼ毎日」を7.0、「週3～6日程度」を4.5、「週1～2日程度」を1.5、「月に2～3日程度」を0.625、「月に1日程度」を0.25、「月に1日未満」を0.125、「視聴しない」を0として算出。  
 ※「週1～6日程度」は「週3～6日程度」・「週1～2日程度」、「週1日未満」は「月に2～3日程度」・「月に1日程度」・「月に1日未満」を合算した値。

# 【NHKプラス・民放同時放送について】

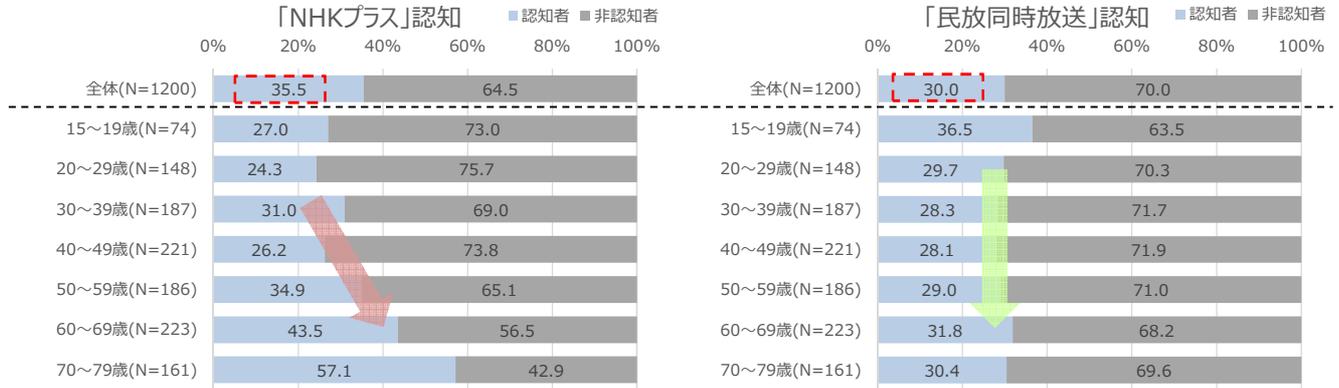
4月(一部地域では3月)から開始された「NHKプラス」と今秋から開始が予定されている「民放同時放送」の視聴の認知状況と利用意向は、  
 ・「NHKプラス」の認知率は全体で35.5%、「民放同時放送」は30.0%。認知率は「民放同時放送」より「NHKプラス」のほうが認知が高い。  
 ・年代別では、「NHKプラス」は年代が高いほど認知率が高く、「民放同時放送」は年代による差はあまりみられない。

問. NHKは、2020年4月1日(一部3月1日)から「NHKプラス」という配信サービスを開始しますが、ご存知でしたか。(ひとつだけ)[N=1,200]

『NHKプラス』とは

- ・地上放送のテレビ番組をインターネットで同時配信する「常時同時配信」
- ・それらの番組を放送後1週間いつでも見ることができる「見逃し番組配信」
- を組み合わせた配信サービス。受信料を支払っている場合は追加料金なしで利用することが可能。

問. 今秋以降、民放キー局5局(日本テレビ・テレビ朝日・TBS・テレビ東京・フジテレビ)は地上放送の一部テレビ番組をインターネット上で同時配信を開始予定ですが、ご存知でしたか。(ひとつだけ)[N=1,200]

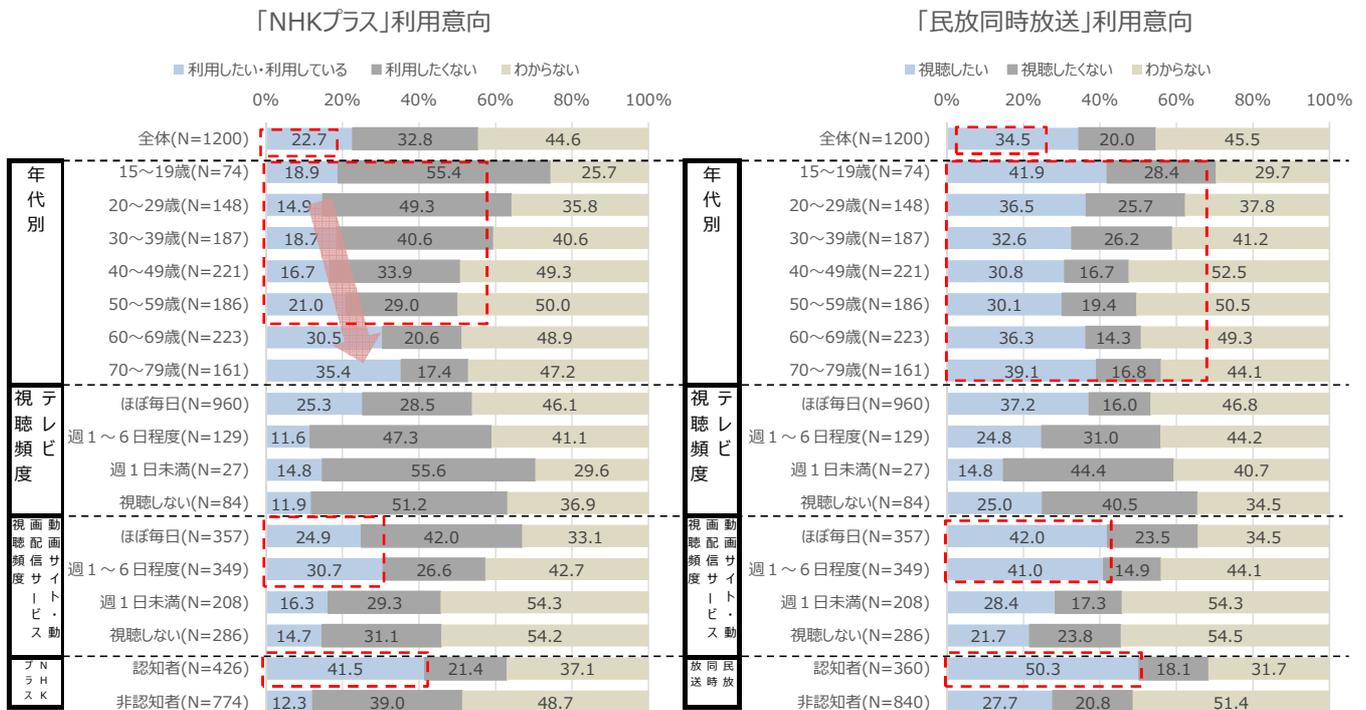


※「認知者」は「知っている」・「聞いたことがある気がする」を合算した値。

- ・利用意向を全体で見ると、「NHKプラス」は「利用したい・利用している」が22.7%、「民放同時放送」は「視聴したい」が34.5%。「NHKプラス」は「利用したくない」(32.8%)が「利用したい・利用している」(22.7%)より高い。
- ・年代別では、「NHKプラス」は年代が高いほど「利用したい・利用している」が高い傾向。50代以下では「NHKプラス」は「利用したくない」が「利用したい・利用している」より高く、その差は若年層ほど大きい傾向。「民放同時放送」はすべての年代で「視聴したい」が「視聴したくない」より高い。
- ・「動画サイト・動画配信サービス」の視聴頻度別にみると、「NHKプラス」と「民放同時放送」はともに、週1日以上視聴者(「ほぼ毎日」、「週1~6日程度」)の視聴意向は全体に比べて高い傾向。
- ・それぞれの認知別にみると、「NHKプラス」と「民放同時放送」はともに、認知者は非認知者に比べ利用意向が高い。

問. あなたは、「NHKプラス」を利用してみたいですか。(ひとつだけ)[N=1,200]

問. あなたは、「民放キー局5局のインターネットでの同時配信の番組」を視聴してみたいですか。(ひとつだけ)[N=1,200]



※「認知者」は「知っている」・「聞いたことがある気がする」を合算した値。